2007 年 6 月

経済産業省・国土交通省

省エネ法（荷主分野）における荷主－輸送事業者間のデータ交換に関するガイドライン

（１）はじめに

平成 18 年から施行された省エネ法で新たに一定規模以上（3000 万トンキロ以上）の荷主がエネルギー使用量を把握し、国に報告することが義務付けられました。

荷主がエネルギー使用量を把握するにあたっては、荷主が持つデータだけからも把握できる場合もありますが、輸送事業者からデータの提供を受けることが必要な場合もあります。この際、不特定多数の荷主が不特定多数の輸送事業者にそれぞれ個別の形式でデータ提供を依頼した場合、対応が困難になることが考えられます。

そこで、輸送事業者から荷主にデータを提供するに当たり、その提供方法についての参考としてデータ交換フォーム(例)を示します。荷主と輸送事業者で十分連絡をとり、適切な方法を選択するようお願いします。

＜重要＞

このデータ交換フォーム（例）は、荷主と輸送事業者の双方が、改正省エネ法の趣旨に沿った取り組みを進める上で、両者双方にとって発展的な協力関係を構築するための一助となることを意図し、参考例として提供するものです。具体的なデータの提供方法や提供内容などについては、荷主・輸送事業者間における対等な協力関係を前提とし、両者間の協議・合意の下で決定するようにして下さい。

特定荷主かどうかを判断するために輸送量（トンキロ）を把握することや、定期報告を行うためにエネルギー使用量を把握すること、また、その内容について説明することに関する責任は、荷主に帰するものです。このデータ交換フォーム（例）を、荷主が輸送事業者を管理するための手段として、また、荷主としての責任を輸送事業者に転嫁するための手段として用いることは、厳に慎んで下さい。

（２）フォーム(例)の位置づけ

本データ交換フォーム(例)はあくまでも荷主がエネルギー使用量を把握するために輸送事業者から荷主にデータを提供する際の参考として示すものです（特定荷主かどうかを判断するために輸送量（トンキロ）を把握するためではありません）。荷主と輸送事業者の間ですでに合意している方法や、個別の事情に応じてより適切な方法があった場合に、それを妨げるものではありません。

特定の希望がない荷主が輸送事業者にデータを求める際や、輸送事業者が汎用的に荷主に提示する際には特にこれを参考として使うことが期待されます。

なお、トラック輸送での利用が主に想定されますが、輸送事業者が利用運送で船舶等他の輸送モードを使っている場合にも利用できるよう配慮しています。

本フォーム(例)は、資源エネルギー庁のウェブサイト（http://www.enecho.meti.go.jp/）、荷主.com（http://www.ninushi.com/）からダウンロードして用いることができます。

（３）フォーム(例)の構成

本フォームは、算定手法ごとに三種類のフォームがあります。また、各フォームは基本情報を記載するフォームと関連情報を記載するフォームの二種類にわかれます。

なお、本フォームは一方的に輸送事業者からデータの提供を求めるものではなく、荷主がデータ提供を求めるに当たり荷主が記載すべき事項も含んでおりますので、注意してください。

ア 基本情報

本フォームを用いる場合には、共通して使用することを想定しているもので、最小限必要な事項を記載するようになっています。このフォームだけを用いることでも基本的なデータ交換を行うことができるようになっています。

ただし、本フォームを用いる上でも荷主と輸送事業者が十分に連絡を取り、可能な範囲を確認して用いるようにしてください。

イ 関連情報（任意）

関連情報は、任意にお使いいただくフォームです。提供することによりデータの分析に用いることや、今後の削減対策に活かすことにつなげることができるものですが、荷主が輸送事業者に一律に求めれば負担が大きいことにも配慮する必要があります。

荷主と輸送事業者との情報連携の中で、協議の上必要に応じて記載するようにしてください。なお部分的に用いることも可能です。

関連情報のフォームは独立したフォームになっております。基本情報も含めて記載するようになっておりますので、基本情報とともに用いる場合には共通事項については転記して用いてください。

（４）燃料法でのデータ交換方法

荷主が燃料法でエネルギー使用量を算定する際に輸送事業者にデータ提供を求めた場合、燃料法データ交換フォームを使います（燃費法で荷主別按分を行った結果の提供を受ける場合にもこのフォームを用います）。

毎月報告することを想定していますが、年１回等での利用も可能です。

ア 基本情報

まず記載されたデータに関する基本情報を記入します。

荷主名、輸送区分*、主要輸送区間、主要貨物種類は予め荷主が記載してください。

*定期報告書の識別（ID）で分類するのに必要に応じて利用してください。

これを受け輸送事業者が輸送事業者名、営業所名*、対象年月を記載してください。

*必要に応じて記載してください。

以降、輸送事業者が該当箇所に記載してください。

トラック輸送の場合、「１．貨物自動車」の欄に、ガソリン車、ディーゼル車（軽油）別に車種区分ごとの燃料使用量(l)を記載してください。車種区分の設定方法は自由ですが、荷主と輸送事業者の話し合いの上で設定してください。なお、その他の燃料を用いている場合（CNG 車の都市ガス等）、その他の（）内に燃料種類の名称を記載し、車種毎に燃料使用量を記載するとともに、備考に燃料使用量の単位（Nm3 等）を記載してください。

船舶輸送の場合は、「２．船舶」の欄に、同様の考え方で記載してください。

その他の輸送モードを利用している場合には、「３．その他（）」の（）内に輸送モード名を記載し、燃料種別・その他の区分毎に燃料使用量を上記と同様に記載してください。

なお、燃費法で荷主別按分を行った結果の提供を行う場合は、備考にその旨を記載してください。

イ 関連情報（任意）

関連情報は、荷主と輸送事業者との情報連携の中で、協議の上必要に応じて記載するようにしてください。

本フォームを Excel 上で利用した場合、総輸送距離や、延台数を記入することで、燃費、台数比率、平均輸送距離が自動的に計算できるようになっています。なお、総輸送距離については、荷主設定値に荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。それを受け、実測値等（最終設定値）に輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する値を記入してください。

また、設定方法には、燃料使用量と総輸送距離の設定方法を選択してください。また必要に応じて関連するデータの記入上の注意等を記載してください。

なお、特記事項には、燃費の変動理由や省エネ取り組みの内容等特に記載すべき事項を任意に記載してください。

（５）燃費法でのデータ交換方法

荷主が燃費法でエネルギー使用量を算定する際に輸送事業者にデータ提供を求めた場合、燃費法データ交換フォームを使います（燃費法で荷主別按分を行った結果の提供を受ける場合には燃料法のフォームを用います）。

毎月報告することを想定していますが、年 1 回等での利用も可能です。

ア 基本情報

まず記載されたデータに関する基本情報を記入します。

荷主名、輸送区分*、主要輸送区間、主要貨物種類は予め荷主が記載してください。

*定期報告書の識別（ID）で分類するのに必要に応じて利用してください。

これを受け輸送事業者が輸送事業者名、営業所名*、対象年月を記載してください。

*必要に応じて記載してください。

以降、輸送事業者が該当箇所に記載してください。

トラック輸送の場合、「１．貨物自動車」の欄に、ガソリン車、ディーゼル車（軽油）別に最大積載量区分ごとの平均燃費 (km/l)を記載してください。その最大積載量に対応する区分（4t 車等）については、必要に応じて任意で記載することができます。なお、その他の燃料を用いている場合（CNG 車の都市ガス等）、その他の（）内に燃料種類の名称を記載し、最大積載量又は区分毎に平均燃費を記載するとともに、備考に燃費の単位（km/Nm3 等）を記載してください。

船舶輸送の場合は、「２．船舶」の欄に、同様の考え方で記載してください。

その他の輸送モードを利用している場合には、「３．その他（）」の（）内に輸送モード名を記載し、燃料種別・その他の区分毎に燃費を上記と同様に記載してください。

イ 関連情報（任意）

関連情報は、荷主と輸送事業者との情報連携の中で、協議の上必要に応じて記載するようにしてください。

本フォームを Excel 上で利用した場合、総輸送距離や、延台数を記入することで、燃料使用量、台数比率、平均輸送距離が自動的に計算できるようになっています。なお、総輸送距離については、荷主設定値に荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。それを受け、実測値等（最終設定値）に輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する値を記入してください。

また、設定方法には、燃費と総輸送距離の設定方法を選択してください。また必要に応じて関連するデータの記入上の注意等を記載してください。

なお、特記事項には、燃費の変動理由や省エネ取り組みの内容等特に記載すべき事項を任意に記載してください。

（６）トンキロ法でのデータ交換方法

荷主がトンキロ法でエネルギー使用量を算定する際に輸送事業者にデータ提供を求めた場合、トンキロ法データ交換フォームを使います。

毎月報告することを想定していますが、年 1 回等での利用も可能です。

ア 基本情報

まず記載されたデータに関する基本情報を記入します。

荷主名、輸送区分*、主要輸送区間、主要貨物種類は予め荷主が記載してください。

*定期報告書の識別（ID）で分類するのに必要に応じて利用してください。

これを受け輸送事業者が輸送事業者名、営業所名*、対象年月を記載してください。

*必要に応じて記載してください。

次に、輸送モード毎に必要事項を記載します。基本的には荷主と輸送事業者がそれぞれ記載する欄が多くなっています。輸送量（トンキロ）の荷主設定値には、荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。なお、合計輸送量（トンキロ）しか分からない場合には、合計欄に直接記載してください。これを受けて、輸送事業者が実測値等（最終設定値）の欄に実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する値を記入してください。

トラック輸送の場合、「１．貨物自動車」の欄に、ガソリン車、ディーゼル車（軽油）別に最大積載量区分ごとの輸送量（トンキロ）と積載率（%）を記載してください。その最大積載量に対応する区分（4t 車等）については、必要に応じて任意で記載することができます。なお、その他の燃料を用いている場合（CNG 車の都市ガス等）、その他の（）内に燃料種類の名称を記載し、最大積載量又は区分毎に輸送量と積載率を記載してください。

平均積載率については、平成 18 年経済産業省告示第 66 号「貨物輸送事業者に行わせる貨物の輸送に係るエネルギーの使用量の算定の方法」に示す積載率不明の場合の事業用自動車のみなし値のもととなっている積載率が予め記載されていますが、これも参考としつつ、荷主が自社や業界のデータ等から推定した値を可能な範囲で荷主推定値の欄に予め記入してください。これを受け、輸送事業者が実測値等（最終設定値）の欄に実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する値を記入してください。

船舶輸送の場合は、「２．船舶」の欄に、同様の考え方で記載してください。

鉄道輸送の場合は、「３．鉄道」の欄に、任意の区分毎に輸送量（トンキロ）を記載してください。なお、鉄道コンテナ輸送の場合、コンテナの最大積載量を貨物重量とみなして記載してください。

航空輸送の場合は、「４．航空機」の欄に、任意の区分毎に輸送量（トンキロ）を記載してください。なお、航空機の場合の区間距離については、航空輸送統計年報を参照することができます（http://toukei.mlit.go.jp/koukuu/koukuu.html）。

イ 関連情報（任意）

関連情報は、荷主と輸送事業者との情報連携の中で、協議の上必要に応じて記載するようにしてください。基本的には輸送事業者が記載する欄が多くなっていますが、貨物重量については、荷主設定値の欄に予め荷主が委託した量を記入してください。

本フォームを Excel 上で利用した場合、貨物重量を記入することで、平均輸送距離が自動的に計算できるようになっています。ただし、鉄道の場合には、12ft コンテナ（5t コンテナ）以外が含まれた場合には、自動計算できませんので、自ら計算した結果を記入するようにしてください。

また、設定方法には、輸送量と積載率の設定方法を選択してください。また必要に応じて関連するデータの記入上の注意等を記載してください。

なお、特記事項には、積載率の変動理由や省エネ取り組みの内容等特に記載すべき事項を任意に記載してください。

燃料法データ交換フォーム(例)　記入例

荷主名	○○株式会社
輸送事業者名	○○運輸株式会社
営業所名	△△支店
対象年月	2007年1月
輸送区分	販売2次物流(ID=5)
主要輸送区間	東京センターからの配送
主要貨物種類	■■

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

1. 貨物自動車

車種		燃料使用量	備考
燃料種	区分	l	
ガソリン	2t車	13,575	
軽油	4t車	33,981	3t車含む
その他(　　)			
合計			

2. 船舶

燃料種	船種・船型	燃料使用量 l	備考
A重油			
C重油			
その他(　　)			
合計			

3. その他(　　)

燃料種	区分	燃料使用量 l	備考

記入要領

・本様式はエネルギー使用量を把握するためのものです。
　特定荷主かどうかの判断の際には荷主自らがトンキロを把握することを想定しています。
・本様式は輸送事業者が荷主に報告する際に用いることを想定しています。
・緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
・燃費法で按分した結果を報告する際には、本様式で代用してください。その場合、備考にその旨明記してください。
・輸送区間、貨物種類等に応じて様式を分けても構いません。
・営業所名には輸送事業者の営業所名を必要に応じて記入してください
　(全社合計の場合は必要ありません。)
・輸送区分は荷主のID(識別)を必要に応じて記入してください。
・貨物自動車の区分には車種名の通称(4t車等)等データ把握区分を記載してください。
・燃料使用量には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値を可能な範囲で記入してください。
　なお、一部のデータのみ提供できるような場合には、必ず備考にその旨記載してください。
・燃料使用量がl以外の場合には、その単位を備考に記載してください。
・貨物自動車以外の輸送モードは利用運送事業者が使う場合を想定しています。
・備考には、上記の燃料使用量の単位等の他、データの記入上の注意等を記載してください。
　(燃費法で荷主別按分を行った結果の提供を行う場合は、備考にその旨を記載してください。)

燃料法データ交換フォーム(例)

荷主名	
輸送事業者名	
営業所名	
対象年月	
輸送区分	
主要輸送区間	
主要貨物種類	

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

1. 貨物自動車

車種		燃料使用量	備考
燃料種	区分	l	
ガソリン			
軽油			
その他(　　)			
合計			

2. 船舶

燃料種	船種・船型	燃料使用量	備考
		l	
A重油			
C重油			
その他(　　)			
合計			

3. その他(　　)

燃料種	区分	燃料使用量	備考
		l	

記入要領

・本様式はエネルギー使用量を把握するためのものです。
　特定荷主かどうかの判断の際には荷主自らがトンキロを把握することを想定しています。
・本様式は輸送事業者が荷主に報告する際に用いることを想定しています。
・緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
・燃費法で按分した結果を報告する際には、本様式で代用してください。その場合、備考にその旨明記してください。
・輸送区間、貨物種類等に応じて様式を分けても構いません。
・営業所名には輸送事業者の営業所名を必要に応じて記入してください
　(全社合計の場合は必要ありません。)
・輸送区分は荷主のID(識別)を必要に応じて記入してください。
・貨物自動車の区分には車種名の通称(4t車等)等データ把握区分を記載してください。
・燃料使用量には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値を可能な範囲で記入してください。
　なお、一部のデータのみ提供できるような場合には、必ず備考にその旨記載してください。
・燃料使用量がl以外の場合には、その単位を備考に記載してください。
・貨物自動車以外の輸送モードは利用運送事業者が使う場合を想定しています。
・備考には、上記の燃料使用量の単位等の他、データの記入上の注意等を記載してください。
　(燃費法で荷主別按分を行った結果の提供を行う場合は、備考にその旨を記載してください。)

燃費法データ交換フォーム(例)

記入例

荷主名	○○株式会社
輸送事業者名	○○運輸株式会社
営業所名	△△支店
対象年月	2007年1月
輸送区分	販売2次物流(ID=5)
主要輸送区間	東京センターからの配送
主要貨物種類	■■

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

1. 貨物自動車

車種			平均燃費(km/l)			備考
燃料種	最大積載量(kg)	区分	国が示すみなし値	荷主推定値	実測値等(最終設定値)	
ガソリン	軽貨物		9.33			
	～1,999		6.57			
	2,000以上	2t車	4.96	4.96	6.10	緊急車両2台含む
軽油	～999		9.32			
	1,000～1,999		6.19			
	2,000～3,999		4.58			
	4,000～5,999	4t車	3.79	3.79	5.17	3t車含む
	6,000～7,999		3.38			
	8,000～9,999		3.09			
	10,000～11,999		2.89			
	12,000以上		2.62			
その他(　　)						
合計						

2. 船舶

燃料種	船種・船型	平均燃費(km/l)		備考
		荷主推定値	実測値等(最終設定値)	
A重油				
C重油				
その他(　　)				
合計				

3. その他(　　)

燃料種	区分	平均燃費(km/l)		備考
		荷主推定値	実測値等(最終設定値)	

記入要領

・本様式はエネルギー使用量を把握するためのものです。
　特定荷主かどうかの判断の際には荷主自らがトンキロを把握することを想定しています。
・本様式は輸送事業者が荷主に報告する際に用いることを想定しています。
・緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
・輸送区間、貨物種類等に応じて様式を分けても構いません。
・営業所名には輸送事業者の営業所名を必要に応じて記入してください(全社合計の場合は必要ありません。)
・輸送区分は荷主のID(識別)を必要に応じて記入してください。
・車両の最大積載量別の内訳詳細が不明な場合には、一般的と思われる車両の最大積載量に代表させて記入してください。
・車両毎の燃費がわかる場合には、総輸送距離又は台数で調和平均をとった燃費を記載してください。
・再委託先がある場合にも、自社分と再委託先分で総輸送距離又は台数で調和平均をとった燃費を記載してください。
　ただし、自社分しかわからない場合には、自社分のみの燃費を記載してください。
　その際、関連情報も報告する場合には、設定方法で「自社車両分のみ」を選択してください。
・燃費の単位がkm/l以外の場合には、その単位を備考に記載してください。
・貨物自動車の区分には車種名の通称(4t車等)等データ把握区分を記載してください。
・貨物自動車以外の輸送モードは利用運送事業者が使う場合を想定しています。
・船舶の場合、輸送距離は1海里=1.852kmとして換算してください。
・備考には、上記の燃費の単位の他、データの記入上の注意等を記載してください。
・国が示すみなし値は、平成18年経済産業省告示第66号「貨物輸送事業者に行わせる貨物の輸送に係るエネルギーの
　使用量の算定の方法」に示す事業用自動車の値
・荷主推定値には、荷主が自社や国、業界のデータ等から推定した値を可能な範囲で予め記入してください。
・実測値等(最終設定値)には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に
　採用する値を記入してください。

燃費法データ交換フォーム(例)

荷主名
輸送事業者名
営業所名
対象年月
輸送区分
主要輸送区間

主要貨物種類

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

1. 貨物自動車

車種			平均燃費(km/l)			備考
燃料種	最大積載量(kg)	区分	国が示すみなし値	荷主推定値	実測値等(最終設定値)	
ガソリン	軽貨物		9.33			
	～1,999		6.57			
	2,000以上		4.96			
軽油	～999		9.32			
	1,000～1,999		6.19			
	2,000～3,999		4.58			
	4,000～5,999		3.79			
	6,000～7,999		3.38			
	8,000～9,999		3.09			
	10,000～11,999		2.89			
	12,000以上		2.62			
その他(　　)						
合計						

2. 船舶

燃料種	船種・船型	平均燃費(km/l)		備考
		荷主推定値	実測値等(最終設定値)	
A重油				
C重油				
その他(　　)				
合計				

3. その他(　　)

燃料種	区分	平均燃費(km/l)		備考
		荷主推定値	実測値等(最終設定値)	

記入要領
・本様式はエネルギー使用量を把握するためのものです。
　特定荷主かどうかの判断の際には荷主自らがトンキロを把握することを想定しています。
・本様式は輸送事業者が荷主に報告する際に用いることを想定しています。
・緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
・輸送区間、貨物種類等に応じて様式を分けても構いません。
・営業所名には輸送事業者の営業所名を必要に応じて記入してください(全社合計の場合は必要ありません。)
・輸送区分は荷主のID(識別)を必要に応じて記入してください。
・車両の最大積載量別の内訳詳細が不明な場合には、一般的と思われる車両の最大積載量に代表させて記入してください。
・車両毎の燃費がわかる場合には、総輸送距離又は台数で調和平均をとった燃費を記載してください。
・再委託先がある場合にも、自社分と再委託先分で総輸送距離又は台数で調和平均をとった燃費を記載してください。
　ただし、自社分しかわからない場合には、自社分のみの燃費を記載してください。
　その際、関連情報も報告する場合には、設定方法で「自社車両分のみ」を選択してください。
・燃費の単位がkm/l以外の場合には、その単位を備考に記載してください。
・貨物自動車の区分には車種名の通称(4t車等)等データ把握区分を記載してください。
・貨物自動車以外の輸送モードは利用運送事業者が使う場合を想定しています。
・船舶の場合、輸送距離は1海里=1.852kmとして換算してください。
・備考には、上記の燃費の単位の他、データの記入上の注意等を記載してください。
・国が示すみなし値は、平成18年経済産業省告示第66号「貨物輸送事業者に行わせる貨物の輸送に係るエネルギーの
　使用量の算定の方法」に示す事業用自動車の値
・荷主推定値には、荷主が自社や国、業界のデータ等から推定した値を可能な範囲で予め記入してください。
・実測値等(最終設定値)には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的
　採用する値を記入してください。

トンキロ法データ交換フォーム(例)

記入例

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

荷主名　○○株式会社
輸送事業者名　○○運輸株式会社　任意記入。輸送事業者の営業所
営業所名　△△支店
対象年月　2007年1月　任意に設定。IDの分類に活用
輸送区分　販売2次物流(ID=5)
主要輸送区間　東京センターからの配送

主要貨物種類　■■

1. 貨物自動車

車種			輸送量(トンキロ)		平均積載率 (%)			備考
燃料種	最大積載量(kg)	区分	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	国が示すみなし値	荷主推定値	実測値等(最終設定値)	
ガソリン	軽貨物				41			
	～1,999				32			
	2,000以上	2t車	103,000	105,629	52	52	52	積載率不明
軽油	～999				36			
	1,000～1,999				42			
	2,000～3,999				58			
	4,000～5,999	4t車	405,000	417,655	62	62	59	3t車含む
	6,000～7,999							
	8,000～9,999							
	10,000～11,999							
	12,000以上							
その他(　　)								
合計			508,000	523,284				

2. 船舶

燃料種	船種・船型	輸送量(トンキロ)		備考
		荷主設定値	実測値等(最終設定値)	
A重油				
C重油				
その他(　　)				
合計				

3. 鉄道

区分	輸送量(トンキロ)		備考
	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	

4. 航空機

区分	輸送量(トンキロ)		備考
	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	

記入要領

- 本様式はエネルギー使用量を把握するためのものです。
  特定荷主かどうかの判断の際には荷主自らがトンキロを把握することを想定しています。
- 本様式は輸送事業者が荷主に報告する際に用いることを想定しています。
- 緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
- 輸送区間、貨物種類等に応じて様式を分けても構いません。
- 営業所名には輸送事業者の営業所名を必要に応じて記入してください。
  (全社合計の場合は必要ありません。)
- 輸送区分は荷主のID(識別)を必要に応じて記入してください。
- 車両の最大積載量別の内訳詳細が不明な場合には、一般的と思われる車両の最大積載量に代表させて記入してください。
- 船舶の場合、輸送距離は1海里=1.852kmとして換算してください。
- 航空機の場合の区間距離については、航空輸送統計年報を参照することができます。
  (http://toukei.mlit.go.jp/koukuu/koukuu.html)
- 備考には、車種名の通称(4t車等)やデータの記入上の注意等を記載してください。
- 国が示すみなし値は、平成18年経済産業省告示第66号「貨物輸送事業者に行わせる貨物の輸送に係るエネルギーの使用量の算定の方法」に
  に示す積載率不明の場合の事業用自動車のみなし値のもととなっている積載率
- 荷主設定値には、荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。なお、合計輸送量(トンキロ)しか分からない場合には、合計欄に
  直接記載してください。
- 荷主推定値には、荷主が自社や国、業界のデータ等から推定した値を可能な範囲で予め記入してください。
- 実測値等(最終設定値)には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する
  値を記入してください。

トンキロ法データ交換フォーム(例)

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

荷主名
輸送事業者名
営業所名
対象年月
輸送区分
主要輸送区間

主要貨物種類

任意記入。輸送事業者の営業所

任意に設定。IDの分類に活用

1. 貨物自動車

車種			輸送量(トンキロ)		平均積載率 (%)			備考
燃料種	最大積載量(kg)	区分	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	国が示すみなし値	荷主推定値	実測値等(最終設定値)	
ガソリン	軽貨物				41			
	～1,999				32			
	2,000以上				52			
軽油	～999				36			
	1,000～1,999				42			
	2,000～3,999				58			
	4,000～5,999				62			
	6,000～7,999							
	8,000～9,999							
	10,000～11,999							
	12,000以上							
その他(　　)								
合計								

2. 船舶

燃料種	船種・船型	輸送量(トンキロ)		備考
		荷主設定値	実測値等(最終設定値)	
A重油				
C重油				
その他(　　)				
合計				

3. 鉄道

区分	輸送量(トンキロ)		備考
	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	

4. 航空機

区分	輸送量(トンキロ)		備考
	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	

記入要領

・本様式はエネルギー使用量を把握するためのものです。
　特定荷主かどうかの判断の際には荷主自らがトンキロを把握することを想定しています。
・本様式は輸送事業者が荷主に報告する際に用いることを想定しています。
・緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
・輸送区間、貨物種類等に応じて様式を分けても構いません。
・営業所名には輸送事業者の営業所名を必要に応じて記入してください。
　(全社合計の場合は必要ありません。)
・輸送区分は荷主のID(識別)を必要に応じて記入してください。
・車両の最大積載量別の内訳詳細が不明な場合には、一般的と思われる車両の最大積載量に代表させて記入してください。
・船舶の場合、輸送距離は1海里=1.852kmとして換算してください。
・航空機の場合の区間距離については、航空輸送統計年報を参照することができます。
　(http://toukei.mlit.go.jp/koukuu/koukuu.html)
・備考には、車種名の通称(4t車等)やデータの記入上の注意等を記載してください。
・国が示すみなし値は、平成18年経済産業省告示第66号「貨物輸送事業者に行わせる貨物の輸送に係るエネルギーの使用量の算定の方法」に
　に示す積載率不明の場合の事業用自動車のみなし値のもととなっている積載率
・荷主設定値には、荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。なお、合計輸送量(トンキロ)しか分からない場合には、合計欄に
　直接記載してください。
・荷主推定値には、荷主が自社や国、業界のデータ等から推定した値を可能な範囲で予め記入してください。
・実測値等(最終設定値)には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する
　値を記入してください。

燃料法データ交換フォーム(例)　　◆関連情報(任意)　　記入例

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

荷主名　○○株式会社
輸送事業者名　○○運輸株式会社
営業所名　△△支店
対象年月　2007年1月
輸送区分　販売2次物流(ID=5)
主要輸送区間　東京センターからの配送
主要貨物種類　■■

燃費等の計算には「実測値等(最終設定値)」を使います。

任意入力

1. 貨物自動車

車種		燃料使用量	参考						備考
			総輸送距離(km)		燃費(km/l)	延台数	台数比率	平均輸送距離(km)	
燃料種	区分	l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)					
ガソリン	2t車	13,575	82,772	82,772	6.10	21	57%	3,942	緊急車両2台含む
軽油	4t車	33,981	175,710	175,710	5.17	16	43%	10,982	3t車含む
その他(　　)									
合計			258,482	258,482		37	100%	6,986	

2. 船舶

燃料種	船種・船型	燃料使用量	参考						備考
			総輸送距離(km)		燃費(km/l)	運航回数	回数比率	平均輸送距離(km)	
		l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)					
A重油									
C重油									
その他(　　)									
合計									

3. その他(　　)

燃料種	区分	燃料使用量	参考						備考
			総輸送距離(km)		燃費(km/l)				
		l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)					

任意設定

設定方法

項目	設定方法	備考
燃料使用量	□給油量から設定　□車載器で測定	4t車のうち3台のみ車載器を搭載し、測定
	按分方法 ■按分不要　■距離按分　□トンキロ按分 □その他(　　)	緊急車両2台分については、貸切便だったため距離按分で燃料使用量を求めた。
総輸送距離	□空車なし　■空車込み	

特記事項

車載器を導入した4t車(3台)では先月より燃費の向上が見られた(5.10km/l→5.31km/l)。

記入要領

・関連情報は、荷主が現状を分析し今後の削減対策を考えるための参考として基本情報に加えて活用することを想定したものです。
・関連情報は、荷主と輸送事業者との情報連携の中で、協議の上必要に応じて記載するようにしてください。
・燃費は貸切便の場合を想定して計算しています。混載便で按分が発生した場合には、燃料使用量の按分方法と同じ方法で総輸送距離を按分した結果を記入してください。
・緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
・船舶の場合、輸送距離は1海里=1.852kmとして換算してください。
・備考には、データの記入上の注意等を記載してください。
・荷主設定値には、荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。なお、合計輸送距離(km)しか分からない場合には、合計欄に直接記載してください。
・実測値等(最終設定値)には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する値を記入してください。
・該当する選択肢(□)を■にしてください。
・燃料使用量、総輸送距離の設定方法が区分により異なる場合には、備考欄に記載してください。
・トンキロ按分は、貨物の輸送トンキロによる按分を指します。異なる考え方でトンキロ按分を行っている場合には備考欄に記載してください。
・特記事項には、燃費の変動理由や省エネ取り組みの内容等特に記載すべき事項を任意に記載してください。

燃料法データ交換フォーム(例)　　◆関連情報(任意)

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

荷主名
輸送事業者名
営業所名
対象年月
輸送区分
主要輸送区間
主要貨物種類

燃費等の計算には「実測値等(最終設定値)」を使います。

任意入力

1. 貨物自動車

車種		燃料使用量	参考						備考
			総輸送距離(km)		燃費(km/l)	延台数	台数比率	平均輸送距離(km)	
燃料種	区分	l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)					
ガソリン	2t車								
軽油	4t車								
その他(　　)									
合計									

2. 船舶

燃料種	船種・船型	燃料使用量	参考						備考
			総輸送距離(km)		燃費(km/l)	運航回数	回数比率	平均輸送距離(km)	
		l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)					
A重油									
C重油									
その他(　　)									
合計									

3. その他(　　)

燃料種	区分	燃料使用量	参考						備考
			総輸送距離(km)		燃費(km/l)				
		l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)					

任意設定

設定方法

項目	設定方法	備考
燃料使用量	□給油量から設定　□車載器で測定	
	按分方法 □按分不要　□距離按分　□トンキロ按分 □その他(　　)	
総輸送距離	□空車なし　□空車込み	

特記事項

記入要領

・関連情報は、荷主が現状を分析し今後の削減対策を考えるための参考として基本情報に加えて活用することを想定したものです。
・関連情報は、荷主と輸送事業者との情報連携の中で、協議の上必要に応じて記載するようにしてください。
・燃費は貸切便の場合を想定して計算しています。混載便で按分が発生した場合には、燃料使用量の按分方法と同じ方法で総輸送距離を按分した結果を記入してください。
・緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
・船舶の場合、輸送距離は1海里=1.852kmとして換算してください。
・備考には、データの記入上の注意等を記載してください。
・荷主設定値には、荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。なお、合計輸送距離(km)しか分からない場合には、合計欄に直接記載してください。
・実測値等(最終設定値)には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する値を記入してください。
・該当する選択肢(□)を■にしてください。
・燃料使用量、総輸送距離の設定方法が区分により異なる場合には、備考欄に記載してください。
・トンキロ按分は、貨物の輸送トンキロによる按分を指します。異なる考え方でトンキロ按分を行っている場合には備考欄に記載してください。
・特記事項には、燃費の変動理由や省エネ取り組みの内容等特に記載すべき事項を任意に記載してください。

燃費法データ交換フォーム(例)　　◆関連情報(任意)　記入例

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

荷主名	○○株式会社
輸送事業者名	○○運輸株式会社
営業所名	△△支店
対象年月	2007年1月
輸送区分	販売2次物流(ID=5)
主要輸送区間	東京センターからの配送
主要貨物種類	■■

燃料使用量等の計算には「実測

任意入力

1. 貨物自動車

車種		平均燃費	参考						備考
			総輸送距離(km)						
燃料種	最大積載量(kg)	km/l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	燃料使用量(l)	延台数	台数比率	平均輸送距離(km)	
ガソリン	軽貨物								
	～1,999								
	2,000以上	6.10	82,772	82,772	13,569	21	57%	3,942	緊急車両2台含む
軽油	～999								
	1,000～1,999								
	2,000～3,999								
	4,000～5,999	5.17	175,710	175,710	33,986	16	43%	10,982	3t車含む
	6,000～7,999								
	8,000～9,999								
	10,000～11,999								
	12,000以上								
その他(　　)									
合計			258,482	258,482		37	100%	6,986	

2. 船舶

燃料種	船種・船型	平均燃費	参考						備考
			総輸送距離(km)						
		km/l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	燃料使用量(l)	運航回数	回数比率	平均輸送距離(km)	
A重油									
C重油									
その他(　　)									
合計									

3. その他(　　)

燃料種	区分	平均燃費	参考						備考
			総輸送距離(km)						
		km/l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	燃料使用量(l)				

任意設定

設定方法

項目	設定方法	備考
燃費	■実測　□みなし(国の値) ↓ ■給油量から設定　□車載器	4t車のうち3台のみ車載器を搭載し、測定
	□実車走行分のみ　■空車含む	
	■自社車両分のみ　□再委託先含む	再委託先は2t車が延3台、4t車が延4台で燃費を未把握だが運行形態が類似しているため自社車両の燃費でみなした。
総輸送距離	□空車なし　■空車込み	

特記事項

車載器を導入した4t車(3台)では先月より燃費の向上が見られた(5.10km/l→5.31km/l)。

記入要領

- 関連情報は、荷主が現状を分析し今後の削減対策を考えるための参考として基本情報に加えて活用することを想定したものです。
- 関連情報は、荷主と輸送事業者との情報連携の中で、協議の上必要に応じて記載するようにしてください。
- 緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
- 船舶の場合、輸送距離は1海里=1.852kmとして換算してください。
- 備考には、データの記入上の注意等を記載してください。
- 荷主設定値には、荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。なお、合計輸送距離(km)しか分からない場合には、合計欄に直接記載してください。
- 実測値等(最終設定値)には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する値を記入してください。
- 該当する選択肢(□)を■にしてください。
- 燃費、総輸送距離の設定方法が区分により異なる場合には、備考欄に記載してください。
- 特記事項には、燃費の変動理由や省エネ取り組みの内容等特に記載すべき事項を任意に記載してください。

燃費法データ交換フォーム(例)　　◆関連情報(任意)

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

荷主名
輸送事業者名
営業所名
対象年月
輸送区分
主要輸送区間
主要貨物種類

燃料使用量等の計算には「実

任意入力

1. 貨物自動車

車種		平均燃費	参考						備考
			総輸送距離(km)						
燃料種	最大積載量(kg)	km/l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	燃料使用量(l)	延台数	台数比率	平均輸送距離(km)	
ガソリン	軽貨物								
	～1,999								
	2,000以上								
軽油	～999								
	1,000～1,999								
	2,000～3,999								
	4,000～5,999								
	6,000～7,999								
	8,000～9,999								
	10,000～11,999								
	12,000以上								
その他(　　)									
合計									

2. 船舶

燃料種	船種・船型	平均燃費	参考						備考
			総輸送距離(km)						
		km/l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	燃料使用量(l)	運航回数	回数比率	平均輸送距離	
A重油									
C重油									
その他(　　)									
合計									

3. その他(　　)

燃料種	区分	平均燃費	参考						備考
			総輸送距離(km)						
		km/l	荷主設定値	実測値等(最終設定値)	燃料使用量(l)				

任意設定

設定方法

項目	設定方法	備考
燃費	□実測　□みなし(国の値) ↓ □給油量から設定　□車載器	
	□実車走行分のみ　□空車含む	
	□自社車両分のみ　□再委託先含む	
総輸送距離	□空車なし　□空車込み	

特記事項

記入要領

- 関連情報は、荷主が現状を分析し今後の削減対策を考えるための参考として基本情報に加えて活用することを想定したものです。
- 関連情報は、荷主と輸送事業者との情報連携の中で、協議の上必要に応じて記載するようにしてください。
- 緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
- 船舶の場合、輸送距離は1海里=1.852kmとして換算してください。
- 備考には、データの記入上の注意等を記載してください。
- 荷主設定値には、荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。なお、合計輸送距離(km)しか分からない場合には、合計欄に直接記載してください。
- 実測値等(最終設定値)には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する値を記入してください。
- 該当する選択肢(□)を■にしてください。
- 燃費、総輸送距離の設定方法が区分により異なる場合には、備考欄に記載してください。
- 特記事項には、燃費の変動理由や省エネ取り組みの内容等特に記載すべき事項を任意に記載してください。

トンキロ法データ交換フォーム(例)　　◆関連情報(任意)　　記入例

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

荷主名	○○株式会社
輸送事業者名	○○運輸株式会社
営業所名	△△支店
対象年月	2007年1月
輸送区分	販売2次物流(ID=5)
主要輸送区間	東京センターからの配送
主要貨物種類	■■

任意記入。輸送事業者の営業所

任意に設定。IDの分類に活用

任意入力

貨物の平均輸送距離の計算には

1. 貨物自動車

車種			輸送量	平均積載率	参考			備考
					貨物重量(t)		貨物の平均輸送距離(km)	
燃料種	最大積載量(kg)	区分	トンキロ	%	荷主設定値	実測値等(最終設定値)		
ガソリン	軽貨物							
	～1,999							
	2,000以上	2t車	105,629	52	2,257	2,257	47	
軽油	～999							
	1,000～1,999							
	2,000～3,999							
	4,000～5,999	4t車	417,655	59	7,351	7,351	57	3t車含む
	6,000～7,999							
	8,000～9,999							
	10,000～11,999							
	12,000以上							
その他(　　)								
合計			523,284		9,608	9,608		

2. 船舶

燃料種	船種・船型	輸送量	参考			備考
			貨物重量(t)		貨物の平均輸送距離(km)	
		トンキロ	荷主設定値	実測値等(最終設定値)		
A重油						
C重油						
その他(　　)						
合計						

3. 鉄道

区分	輸送量	参考				備考
	トンキロ	コンテナの個数			貨物の平均輸送距離(km)	
		12ft	(　　ft)	(　　ft)		

12ft(5t)コンテナ以外を用いている場合には

4. 航空機

区分	輸送量	参考		備考
	トンキロ	貨物重量(t)	貨物の平均輸送距離(km)	

設定方法

項目	設定方法	備考
輸送量(トンキロ)	トン:■実測　□容積換算　□その他(　　) キロ:□実測　□みなし	トン:荷主提供データ 距離:区間毎に実測で測定して予め定めた距離を適用
	設定の単位:□発注ごと　■車種(区分)ごと	
積載率	□実測　■平均的な積載率　□みなし(国の値	車種毎の総トンキロ／総能力トンキロから求めた。

特記事項

配送ルートの組み換えにより、先月より4t車(55→59%)の積載率が向上した。

記入要領

- 関連情報は、荷主が現状を分析し今後の削減対策を考えるための参考として基本情報に加えて活用することを想定したものです。
- 関連情報は、荷主と輸送事業者との情報連携の中で、協議の上必要に応じて記載するようにしてください。
- 緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
- 輸送量(トンキロ)には、基本情報で輸送事業者が実測値等(最終設定値)として報告する値を記入してください。
- 平均積載率(%)には、基本情報で輸送事業者が実測値等(最終設定値)として報告する値を記入してください。
- 船舶の場合、輸送距離は1海里=1.852kmとして換算してください。
- 備考には、データの記入上の注意等を記載してください。
- 国が示すみなし値は、平成18年経済産業省告示第66号「貨物輸送事業者に行わせる貨物の輸送に係るエネルギーの使用量の算定の方法」に示す積載率不明の場合の事業用自動車のみなし値のもととなっている積載率
- 荷主設定値には、荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。なお、合計輸送量(トンキロ)しか分からない場合には、合計欄に直接記載してください。
- 荷主推定値には、荷主が自社や国、業界のデータ等から推定した値を可能な範囲で予め記入してください。
- 実測値等(最終設定値)には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する値を記入してください。
- 該当する選択肢(□)を■にしてください。
- トンキロ、積載率の設定方法が区分により異なる場合には、備考欄に記載してください。
- 特記事項には、積載率の変動理由や省エネ取り組みの内容等特に記載すべき事項を任意に記載してください。

トンキロ法データ交換フォーム(例)　　**◆関連情報(任意)**

荷主が予め記入
荷主・輸送事業者で協議して設定
輸送事業者が記入
自動計算・設定

荷主名
輸送事業者名
営業所名
対象年月
輸送区分
主要輸送区間
主要貨物種類

任意記入。輸送事業者の営業所

任意に設定。IDの分類に活用

任意入力

貨物の平均輸送距離の計算には

1. 貨物自動車

車種			輸送量	平均積載率	参考			備考
					貨物重量(t)		貨物の平均輸送距離(km)	
燃料種	最大積載量(kg)	区分	トンキロ	%	荷主設定値	実測値等(最終設定値)		
ガソリン	軽貨物							
	～1,999							
	2,000以上	2t車						
軽油	～999							
	1,000～1,999							
	2,000～3,999							
	4,000～5,999	4t車						
	6,000～7,999							
	8,000～9,999							
	10,000～11,999							
	12,000以上							
その他(　　)								
合計								

2. 船舶

燃料種	船種・船型	輸送量	参考				備考
			貨物重量(t)		貨物の平均輸送距離(km)		
		トンキロ	荷主設定値	実測値等(最終設定値)			
A重油							
C重油							
その他(　　)							
合計							

3. 鉄道

区分	輸送量	参考				備考
	トンキロ	コンテナの個数			貨物の平均輸送距離(km)	
		12ft	(　　ft)	(　　ft)		

12ft(5t)コンテナ以外を用いている場合には手計算の結果を記入

4. 航空機

区分	輸送量	参考		備考
	トンキロ	貨物重量(t)	貨物の平均輸送距離(km)	

設定方法

項目	設定方法	備考
輸送量(トンキロ)	トン:□実測　□容積換算　□その他(　　) キロ:□実測　□みなし	
	設定の単位:□発注ごと　□車種(区分)ごと	
積載率	□実測　□平均的な積載率　□みなし(国の値	

特記事項

記入要領

- 関連情報は、荷主が現状を分析し今後の削減対策を考えるための参考として基本情報に加えて活用することを想定したものです。
- 関連情報は、荷主と輸送事業者との情報連携の中で、協議の上必要に応じて記載するようにしてください。
- 緑色の部分は、荷主と輸送事業者が協議した上で荷主が予め記入してください。
- 輸送量(トンキロ)には、基本情報で輸送事業者が実測値等(最終設定値)として報告する値を記入してください。
- 平均積載率(%)には、基本情報で輸送事業者が実測値等(最終設定値)として報告する値を記入してください。
- 船舶の場合、輸送距離は1海里=1.852kmとして換算してください。
- 備考には、データの記入上の注意等を記載してください。
- 国が示すみなし値は、平成18年経済産業省告示第66号「貨物輸送事業者に行わせる貨物の輸送に係るエネルギーの使用量の算定の方法」に示す積載率不明の場合の事業用自動車のみなし値のもととなっている積載率
- 荷主設定値には、荷主が自社のデータから算定した値を予め記入してください。なお、合計輸送量(トンキロ)しか分からない場合には、合計欄に直接記載してください。
- 荷主推定値には、荷主が自社や国、業界のデータ等から推定した値を可能な範囲で予め記入してください。
- 実測値等(最終設定値)には、輸送事業者が実測その他の方法で把握した値があればそれを、ない場合には荷主の設定値等最終的に採用する値を記入してください。
- 該当する選択肢(□)を■にしてください。
- トンキロ、積載率の設定方法が区分により異なる場合には、備考欄に記載してください。
- 特記事項には、積載率の変動理由や省エネ取り組みの内容等特に記載すべき事項を任意に記載してください。